

だい き だい かい し がいこくじん し みん い いんかい
第5期 第3回さいたま市外国人市民委員会

にちじ ねん がつ にち げつ
日時：令和5年3月20日（月）

ごご じ ふん ごご じ ふん
午後6時30分～午後8時30分

ばしよ うらわ だい しゅうかいしつ
場所：浦和コミュニティセンター 第15集会室

し だい
次 第

1. かい かい
開 会

2. ぎ じ
議 事

(1) だい き し がいこくじん し みん い いんかいていげんないよう
第5期さいたま市外国人市民委員会提言内容について

(2) いけんこうかん
意見交換

3. れんらくじこう
連絡事項

4. へい かい
閉 会

だい き 第5期さいたま市外国人市民委員会 委員名簿
 し がいこく じん しみん しいんかい
 いいん めいぼ

	氏名	フリガナ	備考
1	頼 沃徳楽	ライ ウダラ	だい き 第4期からの継続 けいぞく
2	王 蕾	オウ ライ	だい き 第4期からの継続 けいぞく
3	羅 昊	ラ コウ	だい き 第4期からの継続 けいぞく
4	西川 ナンシ	ニシカワ ナンシ	だい き 第4期からの継続 けいぞく
5	ノルル シャズミラ	ノルル シャズミラ	
6	金 京垠	キム キョンウン	
7	ディプティ アナンダ ム ルティ	ディプティ アナンダ ムルティ	
8	山下 美賢	ヤマシタ ミサト	
9	Yanagida Ann Lisa	ヤナギダ アン リサ	
10	Namba Marilyn Joy	ナンバ マリリン ジョ イ	

だいご き だいいつかい しがいこくじんしみんいんかい いけん
第5期 第1回さいたま市外国人市民委員会での意見

ぎろん
議論テーマ

- にほんご べんきょう
日本語の勉強について
- せいかつ ひつよう じょうほう しゅうしゅうほうほう
生活に必要な情報の収集方法について
- やさしい にほんご
やさしい日本語について
- ぼうさい
防災について

1 にほんご べんきょう
日本語の勉強について

- ちいき にほんご きょうしつ いちばんやく た ほかにほん き がいこくじん
地域の日本語ボランティア教室が一番役に立つし、他の日本に来たばかりの外国人にもボランティア教室のことを教えている。
- にほんごきょうしつ がくしゅうしゃ さんか かた ねんだい わか かた
日本語教室に学習者として参加する方の年代によって、それが若い方だったらどうい
ことに興味を持っているかをリサーチして、いろいろな年代の方が集まれるように工夫をす
ると良い。

2 せいかつ ひつよう じょうほう しゅうしゅうほうほう
生活に必要な情報の収集方法について

- し じぎょう などの じょうほう にゆうしゆ こま したことがあった。しやくしょで じゅうみんとうろく
市の事業などの情報が入手できなくて困ったことがあった。市役所で住民登録をする
際に、市がオリエンテーションをすれば、地域のことが分かってよいと思う。
- がいこくじん てんにゅう
外国人が転入したときに、オリエンテーションや、IT のツールを通じて、例えば住民票
がコンビニでとれるというようなことも伝えられる仕組みづくりができれば、時間の削減
ができるのではないか。
- QR コードで じょうほう しゅうち えき ひと あつ けいじ
QR コードで情報を周知するとか、駅など人が集まるところに掲示してあると良いと思
った。
- せいかつ こま けん がいこくじん
生活のことで困ったときには、県の外国人サポートセンターを利用している。外国人向け
の情報は、駅や大型の商業施設にあったら良い。また、自治会に依頼するのも良いと思
う。
- さんか はなし ちよくせつ がいこくじん うれ さんか
イベントに参加してほしいという話を直接してもらったら、外国人は嬉しくて参加する
と思う。そういう場に参加すれば、交流もできるし、情報をもらうこともできるのではな
いか。

3 にほんご
やさしい日本語について

- じつ にほんご わ 言えないという外国人はたくさんいるのではないか。
行政がやさしい日本語で書いているものは、役に立っていると思う。
- ふりがなを 振って、みじか か 書いてあるとやさしい日本語に見えるけれど、実はその内容が
じゆくご にほんご わ 分からない人には全くやさしくなかったりする。しょうがっこう ていがくねん
熟語で、日本語が分からない人には全くやさしくなかったりする。小学校の低学年くらい

の子が理解できるレベルの文章にするとか、文章にできなければ絵をつけるとかの工夫で、色々な人が助かると思う。

・まず日本語をある程度マスターしないとやさしい日本語の「やさしさ」を感じないと思う。それだったらそもそも最初から絵にした方がよい。また、外国語の訳を最初に書いておいて、最後に日本語の注釈をつけるなど、外国語の視点に立ってやさしい日本語を作る方がよいと思った。

・やさしい日本語は、日本語の基礎がある人には分かりやすいと思う。本当に何も分からない人には正直なところ、あまり役に立たないかもしれないと思った。

・文字だけだったら日本語を理解するのは難しいので、表など文字じゃない方法でも書いてほしい。

4 防災について

・防災アプリについて、区役所でポスターを見て知ったが、みんなに伝えるのは難しいと感じる。市報に出ていれば見るかもしれない。

・例えばアプリをダウンロードするとヌウのスタンプが無料でもらえるなどのやり方も、今風で良いかもしれない。

・日本は災害大国でもある。そういう事実を市が発信して、外国人の災害に対する意識を高めてもらう必要がある。市がある程度の数の救命バッグを購入し、割引をして外国人に販売できれば良いのではないか。災害が起きた後に負傷者を救助するよりも、事前に自分で備えようという呼びかけが必要なように思う。

・私は防災関係の情報はインターネット上の外国人コミュニティから得ている。そこではテレビやスマホのニュースより情報が早い。日本人から情報を得るより、外国人同士の間で共有されることが多いのではないかな。

・情報は市報だけではなく、日本語教室のホームページにも載せるとか、情報は1か所に集めて載せるより、分散して載せた方が情報を得られる人は多くなると思う。色々な情報が載っていれば、アクセスもよくするようになり、その情報を外国人同士でシェアするようになるかもしれない。

・WEBのプロバイダに広告料金を払って、検索結果一覧の上の方に表示してもらうという方法もあるので検討してみると良い。

ぎろん
議論テーマ

- ・がっこう・ほいくえん
学校・保育園について
- ・コミュニティについて
- ・しごと
仕事について
- ・やくしょ てつづ じょうほうはつしん
役所の手続きや情報発信について
- ・やさしいにほんご
やさしい日本語について

1 学校・保育園について

子どもの時、日本人の顔をしているから、言葉も分かると思われていたようだ。実際は外国で育っているから、言葉も苦手で、授業もまったく分からなかったのに、本人のやる気がないというようにみなされた。

子どもが小学校に入学したとき、私も子どもも日本語が苦手で、あれもこれもできないと指摘されてしまった。2学期に入ってから、日本語支援の先生が手伝ってくれたので、そこからどんどん理解ができるようになった。1学期からだったらもっと助かった。

最初は日本の学校の生活のことについて全然分からなかった。高齢者のシルバーワークで、学習会があるが、上の子の時は知らなかった。そういう場所があるということは、全部日本語で書いてあり、少し読めるようになってから分かった。

子どもが来年小学生なので、保護者説明会に参加した。そこまで難しいことはないと思っていたが、実際現場に行き、説明を聞いてみると、分からないことばかりだった。終わってから、実は私は外国人で、書類が書けなかったことと、入学後授業などの進み方についていけるのか心配だと相談した。そうしたら、後日学校から電話をされると言われたのでありがたかったのだが、まだ電話がない。

2 コミュニティについて

アメリカには ESL という良い制度があり、その外国人の子どもの言葉のケアをレベルごとにしてくれて、さらに、日常生活のサポートを受けられるよう、言語ごとのコミュニティにつなげてくれる。日本でもそういう制度があればとても良いと思っている。

自分の親は日本から移住したので、日本人のコミュニティの中で、学校のことをお互いに教えたり、困りごとを共有していた。同じ境遇の人と知り合えるイベントがあるとよい。

3 仕事について

・今新型コロナの影響で、仕事がない人がたくさんいるので、市からも派遣会社や仕事

を、外国人の実習生とか学生の方に紹介してほしい。

・言葉が通じないと、単純作業だけを割り当てられたり、注意をするときも日本人相手にはしないようなとてもきつい言い方をされる。外国人労働者が現場に入ったときに言葉がわかるように、最低限の語彙力をつける研修があると、働く人の環境やできる仕事の範囲が変わる。

・子どもの保育園には外国人の先生がたくさんいるが、日本語が分からないとあまり長く仕事ができなくて、転職してしまう。日本での生活は難しいと言っていた。なかなか日本語が勉強できる場所がないとのことなので、支援があったらよいと思う。

4 役所の手続きや情報発信について

・いつもアクセスしているところだと情報は得やすい。図書館だと自由にゆっくりと見られるし、いろんな情報を得て、そこからつながりを持てたり、イベントに参加してみようかという気持ちになる。

・技能実習生は東南アジアからの方が多い。みんな日本に来たとき、とても困って、結局自分のグループに固まることになる。情報もなく、新型コロナのワクチンも申込みや手続きができないということが、本当に大問題だと思う。

・やさしい日本語と、簡単な英語で説明してもらえると、外国人も申し込みやすいし、方法を覚えた人から友達や親戚にも教えられて、みんなが助かる。

・外国に住んでいる友人に送金したかったが、マイナンバーカードが必要だと分かった。そこで区役所に相談に行ったら、説明が雑で、WEBサイトを案内されただけだった。

・外国語で手続きについて書いてあるリーフレットもあるが、その言語が母国語ではない可能性もあるので、イラストなどでどのボタンを押すかわかりやすく書いてあると助かる。

・学校にいる日本語指導員は、他の場所でもグループを集めて活動していたりするので、色々なお知らせを渡して、広めてほしいとお願いしてもよいのではないかと。

・初めて日本に来たときは、日本語がわからなかったのだから、通っていた日本語学校の職員が学生をまとめて、役所で一緒に手続きをした。今はマイナンバーなど手続きが多岐にわたるので、日本語が苦手な人が困ることが多いと思う。

・婚姻届を日本で提出するときに、受理してもらうまでに5回かかった。4回目ですべて必要書類の一覧をもらい、なぜ最初からくれなかったのか、と思った。

5 やさしい日本語について

・役所の職員だけでなく、スーパーの人、飲食店の人など日常で接しているいろんな日本人に、やさしい日本語の存在だけでも認識してほしい。外国人にとっては、本当に助かる。

ちいきにほんごきょういく かか そうごうちょうせいかいぎ いげん
 地域日本語教育に係る総合調整会議での意見

① 学校における初期対応(入学するときや、転入するときの手続きなどについて)

<p>がいこくじんしみんいんかい 外国人市民委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが小学校に入学したとき、私も子どもも日本語が苦手で、あれもこれもできないと指摘されてしまった。2学期に入ってから、日本語支援の先生が手伝ってくれたので、そこからどんどん理解ができるようになった。1学期からだったらもっと助かった。 最初は日本の学校の生活のことについて全然分からなかった。高齢者のシルバーワークで、学習会があるが、上の子の時は知らなかった。そういう場所があるということは、全部日本語で書いてあり、少し読めるようになってから分かった。 子どもが来年小学生なので、保護者説明会に参加した。そこまで難しいことはないと思っていたが、実際現場に行くと、説明を聞いてみると、分からないことばかりだった。終わってから、実は私は外国人で、書類が書けなかったことと、入学後授業などの進み方についていけるのか心配だと相談した。そうしたら、後日学校から電話をされると言われたのでありがたかったのだが、まだ電話がない。 アメリカには ESL という良い制度があり、その外国人の子どもの言葉のケアをレベルごとにしてくれて、さらに、日常生活のサポートを受けられるよう、言語ごとのコミュニティにつなげてくれる。日本でもそういう制度があればとても良いと思っている。
<p>そうごうちょうせいかいぎ 総合調整会議</p> <p>(地域日本語ボランティア教室の代表者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 私も自分の日本語教室で教えていると、外国人市民委員会の皆さんがおっしゃっていることと同じようなことを感じる。初期対応に必要なのは、日本語の指導だけではない。保護者も子ども、一日のプログラムや、一年間の流れについてなど、学校生活についても理解できているというのも、重要なことだ。 学校からの手紙について、精度の高い翻訳も必要だとは思いますが、例えば「給食」という言葉について、「学校でのお昼ご飯」と書いてあっても、文化的なことが分からないと本当の意味では理解ができない。文字だけではなく、ビデオなどの視覚的な情報や、保護者との対話を通じて、違いが分かっていくのだと思う。 外国人の方で、子どもころそのような体験をした方、また、保護者の方の体験を聞いて

ていくのは重要だと思った。

・保護者説明会の話に関連して、就学時健診(入学の前に、子どもが受ける健康診断)の書類の記入は、外国人の親には本当に難しい。日本語教室につながっている親なら、そこで一緒に記入していくこともできるが、助けてくれるところがないと空欄のまま持って行くことになり、学校で迷惑そうな顔をされ、申し訳ない、という気持ちになってしまう。

・私のグループでは、就学児健診のときに学校に行き、もし記入できていない人がいたら、別のテーブルで書くお手伝いをしている。その時は他の外国人の親と一緒にいって、母語を使いながら一緒に埋めていく作業をしてもらっている。そうすると、一緒に手伝ってくれた親たちも、「私も役に立った」という気持ちになって、良い相乗効果生まれる。

・学校に行ってもどうせ分からない、という気持ちをなくしたい。学校に行けばどうかなる、大丈夫と思ってもらえれば、親と学校の関係にもいい影響が及ぼせる。

(地域日本語ボランティア教室の代表者)

・地域の日本語教室ではボランティアが非常に熱心に活動を行っているが、行政の責任という意味でも、学校の初期対応を専門的に行う施設があつていいと思う。

②地域日本語ボランティア教室

外国人市民委員会

・地域の日本語ボランティア教室が一番役に立つし、他の日本に来たばかりの外国人にもボランティア教室のことを教えている。

・日本語教室に学習者として参加する方の年代によって、それが若い方だったらどういうことに興味を持っているかをリサーチして、いろんな年代の方が集まれるように工夫をすると良い。

総合調整会議

(地域日本語ボランティア教室の代表者)

・ボランティア養成講座(日本語を教えるボランティアになりたい人に、教え方の研修をする)は、受講者に、講座の後に教室で続けて活動してもらえるように、同じ時間帯や

曜日、場所で開催してもらえるとよい。

(国際交流員＜外国人から生活の相談を受けたり、翻訳の担当をしている＞)

・私は地域の日本語教室で日本語を学んだので、その先生とのつながりが日本での生活の定着にすごく役立った。他の外国人の方にも教室の存在をぜひ知ってほしい。それが生活全般に慣れるための環境づくりにつながる。

・外国人が参加できる場所、参加しやすい環境があるといい。外国人だけにメリットがあるのではなく、日本人がお互いに学びあう場になることが必要。例えば、外国人も日本人に自分の国の文化を紹介するなどして、「役に立っている」と感じてもらう場面があってもいい。

③ 仕事場での日本語

外国人市民委員会

・言葉が通じないと、単純作業だけを割り当てられたり、注意をするときも日本人相手にはしないようなとてもきつい言い方をされる。外国人労働者が現場に入ったときに言葉がわかるように、最低限の語彙力をつける研修があると、働く人の環境やできる仕事の範囲が変わる。

・子どもの保育園には外国人の先生がたくさんいるが、日本語がわからないとあまり長く仕事ができなくて、転職してしまう。日本での生活は難しいと言っていた。なかなか日本語が勉強できる場所がないとのことなので、支援があったらよいと思う。

総合調整会議

(国際交流員)

・外国人からは、地域ボランティア日本語教室で覚える日本語は、仕事で使うにはちょっと足りないという意見を聞く。高いけれど、民間の日本語学校に行くという人もいた。

・比較的に長く日本で生活している人が、仕事を探しに行ったときに、敬語が使えないと、「こんなに長く日本にいるのに、まだ敬語も使えないのか」とか「敬語が使えない＝仕事ができない人だ」と思われてしまう恐れもあるので、その人のレベルに応じて、しっかり敬語も学べるような場を作してほしい。

④やさしい日本語

外国人市民委員会

- ・実は日本語がわからないけど、言えないという外国人はたくさんいるのではないかと。行政がやさしい日本語で書いているものは、役に立っていると思う。
- ・フリガナを振って、短く書いてあるとやさしい日本語に見えるけれど、実はその内容が熟語で、日本語がわからない人には全くやさしくなかったりする。小学校の低学年くらいの子が理解できるレベルの文章にするとか、文章にできなければ絵をつけるとかの工夫で、色々な人が助かると思う。
- ・まず日本語をある程度マスターしないとやさしい日本語の「やさしさ」を感じないと思う。それだったらそもそも最初から絵にした方が良い。また、外国語の訳を最初に書いておいて、最後に日本語の注釈をつけるなど、外国語の視点に立ってやさしい日本語を作る方が良いと思った。
- ・やさしい日本語は、日本語の基礎がある人には分かりやすいと思う。本当に何も分からない人には正直なところ、あまり役に立たないかもしれないと思った。
- ・文字だけだったら日本語を理解するのは難しいので、表など文字じゃない方法でも書いてほしい。
- ・役所の職員だけではなく、スーパーの人、飲食店の人など日常で接しているいろんな日本人に、やさしい日本語の存在だけでも認識してほしい。外国人にとっては、本当に助かる。

総合調整会議

(国際交流員)

- ・やさしい日本語はとても役に立つ。やさしい日本語を使うときに気を付けてほしい点は、日本語は主語をなくしても大丈夫だが、英語の場合はそうすると意味が分からなくなってしまう。SOVをはっきりして言ってほしい。
- ・初心者にわかりやすい動詞を使ってほしい。何かを優しく伝えるときには敬語を使ってしまうと思うが、使わないでほしい。でも、優しい表情、言い方をしてほしい。

(地域日本語ボランティア教室の代表者)

- ・やさしい日本語は、外国人だけではなく高齢者に何かを伝えるのにも役に立つ。社会全体でやさしい日本語を使っていくべきだということを、行政には理解してほしい。

第 1 期～第 4 期さいたま市外国人市民委員会提言内容について

○第 1 期（2014～2015年）

「外国人も暮らしやすいコミュニケーション豊かなまちづくりに向けた提言」

1 働きやすさについて

- (1) 外国人を雇用する企業に、外国人の採用時、就労に必要なオリエンテーションや採用時の契約に係る説明をしっかりと行うよう、働きかけてください。

2 外国人家族に対する日本語と教育の支援について

- (1) 日本語の学習だけでなく、相互理解につながる日本語を学ぶ場の提供を、継続してください。
- (2) 子どもたちが、日本語だけでなく、学校の勉強も学べる場を充実してください。

3 住みやすさについて

- (1) 住民票等の公文書を外国語でも発行してください。
- (2) 自然災害や環境汚染など、健康や生活に影響のある情報を継続的に発信してください。

4 日本人と外国人の相互理解の促進について

- (1) さいたま市に住んでいる外国人の考えを、外国人により情報発信する機会と交流の場を検討してください。
- (2) 多機能な相談窓口を設置して、生活や学習などの社会資源を、分かりやすくまとめた情報を提供してください。

○第2期 (2016～2017年)

「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたさいたま市における多言語表記

および外国人観光客へのボランティアの関わり方について」

1 さいたま市における多言語表記について

- (1) 伝わりやすい多言語表記
- (2) 文化や習慣の違いを意識した多言語表記
- (3) 外国人観光客がさいたま市にまた来たくなるアイデア

2 外国人観光客へのボランティアの関わり方について

- (1) ボランティアへ期待すること、望むこと
- (2) ボランティアの育成及びサポート体制について
- (3) 外国人市民としてのボランティアなどへの関わり方について

○第3期 (2018～2019年)

「今後さらなる増加が予想される外国人市民にとって、住みやすい社会の実現と地域

社会との共生に向けて」

1 外国人市民が暮らしやすいまちづくり

- (1) 外国人市民に対する情報提供の充実
- (2) 日本語が不自由な外国人市民に対する支援
- (3) 外国人市民の地域コミュニティへの参画と共助
- (4) 外国人市民の防災意識の向上と災害時対応

2 人材を有効活用した国際交流が活発なまちづくり

- (1) イベント等での外国人市民の有効活用
- (2) 国際交流活動を行う外国人市民への支援

○第4期（2020～2021年）

「国籍の違いに関わらず、すべての市民が安心して、住み続けたいくなる魅力ある街づくり
に向けて」

- 1 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について
 - (1) 子育て家庭への支援
 - (2) 日本語支援
 - (3) 学校からの情報提供の多言語化について
 - (4) サポート役のコーディネーターの配置
 - (5) PTAの参加への支援
 - (6) いじめ、差別への対応
- 2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取り組み
 - (1) 文化体験の紹介・地域資源の活用
 - (2) ホームページ、SNSについて
 - (3) コンベンション、イベントについて

だい き
第 4 期

しがいこくじんしみんいんかい
さいたま市外国人市民委員会

ていげんしょ
提言書

こくせき ちが かが かか しみん あんしん す つづ みりよく まち
国籍の違いに関わらず、すべての市民が安心して、住み続けたいくなる魅力ある街づ
くりに向けて

わたし だい き し がいこくじんしみんいんかい こんご ぞうか かんが
私たち、第4期さいたま市外国人市民委員会は、今後さらに増加すると考
えられる外国人市民にとって「安心して住み続けたいと思えるまち」、「魅力ある
まち」を目指すため、次のように提言します。

1 がいこくじん こそだ こ がっこうせいかつ ひつよう しえん
外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について

がいこくじんしみん し こそだ ほいくえん ようちえん がっこう
外国人市民がさいたま市で子育てするときや、保育園、幼稚園、子どもの学校
せいかつ
生活にあたっては、次のような課題が挙げられます。

- こそだ がいこくじん こうりゅう ば ふそく
・子育てをしている外国人の交流の場の不足
- にほんご しえん
・日本語の支援
- がっこう はいふ しょうい たげんごか
・学校から配布される書類の多言語化
- がいこくじん こ かんきょうづく
・外国人の子どもをサポートしてくれる環境作り
- がいこくじんほごしゃ さんか
・外国人保護者のPTAへの参加
- いじめ さべつ たいおう など
・いじめ、差別への対応 など

これらの課題に対して、必要な支援や、適切な情報提供をして、外国人市民
あんしん く めざ
が安心して暮らせるまちづくりを目指してください。

こそだ かにい しえん
(1) 子育て家庭への支援

がいこくじんかにい こそだ おな きょうぐう がいこくじん せつきよくてき
外国人家庭のための子育てサークルや、同じ境遇の外国人が積極的に
こうりゅう
交流できるオンライン、オフラインの場を作ってください。また、外国人と
にほんじん ほごしゃ こうりゅう ば おお つく
日本人の保護者が交流できる場を多く作ってください。

がいこくじん こそだ なか ひつよう じょうほう え
外国人が子育てをする中で、必要な情報がわかりやすく得られるように
がいこくじんむ いくじそだんかい じっし
外国人向けの育児相談会なども実施してください。

(2) 日本語支援

がいこくじん こ ほうかご ほしゅうじゅぎょう おこな にほんご しえん おこな
外国人の子どもへ放課後に補習授業を行うなど、日本語の支援を行って
ください。また、がいこくじん ほごしゃ たい へいじつ やかん どにち じかん
外国人の保護者に対しても、平日の夜間、土日などの時間に
こうみんかん し しせつ かつよう にほんごきょうしつ かいこう ほか
公民館や市の施設を活用した日本語教室を開校してください。その他にもオ
ンラインでの日本語教室をレベル別に開催してください。
にほんご まな さい にほん せいかつ ひつよう しゅうかん にほんぶんか
日本語を学ぶ際に、日本での生活に必要なルールや習慣、日本文化につい
てもあわ まな せいかつ ふあんかいしょう
併せて学ぶことができれば、日本での生活における不安解消につながり
ます。

(3) 学校からの情報提供の多言語化について

がっこう はいふ しょうい たげんご ていきょう りそう ぼうだい
学校から配布される書類を多言語で提供してもらうのが理想ですが、膨大
ほんやくさぎょう ひつよう じょうほうていきょう
な翻訳作業が必要となるので、メールやホームページで情報提供してくだ
さい。ほんやく かつよう ひつよう げんご ほんやく
翻訳サイトやアプリを活用することで、必要な言語に翻訳することが
できます。

(4) サポート役のコーディネーターの配置

がいこくじん こ がっこうせいかつ にほん せいかつ な こま こと
外国人の子どもが学校生活や日本での生活に慣れるため、また、困った事を
そうだん やく はいち かくがっこう
相談できるよう、カウンセラーや、サポート役の配置をしてください。各学校
はいち むずか しないかくしょ ちいきべつ はいち
に配置することは難しいかもしれませんが、市内各所への地域別の配置や、
がっこうほうもん でんわ たいおう しえん ねが
学校訪問、電話での対応などの支援をお願いします。

(5) PTAの参加への支援

日本語が理解できない外国人にとって、PTAの役割や活動内容を理解するのは、大変なので、外国人が参加しやすくなるようにマニュアルや、多言語での説明資料を作成してください。

(6) いじめ、差別への対応

異なる人種や価値観、習慣などを認め合えるよう、外国人講師による国際交流や国際理解の授業を行ってください。また、子どもが孤立しない工夫や、心が傷ついてしまった子へのケアを行ってください。

2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み

外国人が「さいたま市に来たい、来てよかった」と思ってもらえるまちづくりを進め、活気にあふれるまちを目指すため、次のように提言します。

(1) 文化体験の紹介・地域資源の活用

外国の方が日本の文化を体験できる、紹介ウェブサイトやアプリを作成するとともに、パンフレットを作成し、観光案内所に配置してプロモーションしてください。

また、ヨーロッパ野菜を使った朝市その他、氷川参道や遊歩道、高架下などを利用したマーケットなどを、駅の近くで開催するとより多くの観光客が楽しめると思います。

(2) ホームページ、SNS について

- (i) さいたま観光国際協会が作成しているホームページについて、多言語での観光の情報発信をされており、内容も充実して良いと思いますが、施設やツアーの予約まで出来るとより良いサイトになると思います。
- (ii) SNS を用いた交流や、情報発信を多言語で積極的に行ってください。
- (iii) YouTube を活用し、さいたま市の観光地や、公園、お店などの動画を積極的に発信してください。

(3) コンベンション、イベントについて

さいたま市が持っている資源や立地を生かし、さいたまスーパーアリーナ、埼玉スタジアム2002などの施設と連携して、国際的なコンベンションやイベントの誘致・開催を行ってください。

コンベンションの際に、大宮の盆栽、岩槻の人形、浦和のうなぎ、漫画文化などを用いたイベントを行い、情報発信をすることで、さいたま市の魅力を多くの人に伝えることができます。